

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	安全で歩行者等にも優しい道路整備						掲載ページ
							141
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		4,293,727 千円	3,976,012 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	歩行空間の安全性や快適性、利便性の向上を図り、歩道などの整備を行い、暮らしに身近な道路における望ましい都市環境の創出を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	公園や学校周辺、その他地域の活動や市民の生活に密着する生活道路、用地買収を伴う拡幅整備など、事業範囲を拡大した生活密着型公共事業を実施します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	暮らしに身近な道路整備	2,906 m	住民要望等に応じて処理	5,832 m	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	公園や学校周辺、その他地域の活動や市民の生活に密着する生活道路、用地買収を伴う拡幅整備など、歩道や側溝、防護柵等の設置を実施します。 (最終目標と最終年度)						
	安全で歩行者等にも優しい道路整備	9,506 件	住民要望等に応じて処理	13,648 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
市内一円において、身近な道路の修繕、道路サポーターの活動推進、里道整備、転落防止柵の設置等を実施します。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	暮らしに身近な道路の安全な歩行者空間の要望は日々あり、随時対応しております。市内一円において道路の修繕、里道の整備、転落防止柵の設置を実施しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	道路の維持管理に関することについては、入札により緊急業者を選定し、緊急時に対応できるようにしており効率的であると考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
市民の方々や意見交換の中で、「市民センター周辺以外にも、事業範囲を広げて欲しい」、「拡幅を伴う事業も積極的に対応して欲しい」などの要望も受けており、これらの対策が課題となっていたため、限定的な範囲(通学路、市民センターから500m付近)から、公園や学校周辺、その他地域の活動や市民の生活に密着する生活道路、用地買収を伴う拡幅整備など、事業範囲を拡大した生活密着型公共事業として実施しています。これにより、更なる地域の安全安心な歩行空間を確保し、高齢化社会に対応したまちづくりを促進するとともに、その整備は地元業者へ発注することから地域経済対策にも繋がるものと考えられます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	人にやさしいまちづくりの推進						掲載ページ
							79
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		1,380 千円	1,564 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	総務課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して快適に生活できる「人にやさしいまち」を実現するため、年齢や障害の有無などの違いを相互に理解し、尊重し合う「心のバリアフリー」を推進するための啓発事業や情報提供を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	心のバリアフリーの推進に向けた市民啓発、情報提供等の取り組み ・人にやさしいまちづくり週間(バリアフリーウィーク)の実施 ・ふれあいバリアフリー事業の実施 ・心のバリアフリー啓発パンフレットの作成・配布 ・人にやさしいマークの普及						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	バリアフリーウィーク関連事業の参加延べ人数	27,969 人	20,000 人	26,180 人 130.9 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「心のバリアフリー」への関心を向上させる契機としての啓発機会をどの程度提供できているかを図るため、バリアフリーウィーク関連事業の参加人数を活動指標とします。 (最終目標と最終年度) 20,000人 / 平成26年度						
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 当初計画どおり、体験型啓発事業であるふれあいバリアフリー事業をはじめ、バリアフリーウィークや啓発パンフレットの配布等、各種啓発事業を実施しました。 体験型啓発事業(ふれあいバリアフリー事業)体験後のアンケートでは、約6割の人が「体験した障害者スポーツに興味を持った」と答えるなど、本事業の実施によって、一定程度、「心のバリアフリー」が推進されていると考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 関係団体がそれぞれ行っているバリアフリーに関連するイベントや啓発活動について、人にやさしいまちづくり週間(バリアフリーウィーク)を設定し、期間中のイベントについて集中してPR・啓発することにより、低いコストで効果的な啓発が行えるよう努めています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
これまでの実施事業の内容や成果についての検証を行いながら、人にやさしいまちづくりを推進する事業を行いたいと考えています。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	バリアフリーのまちづくりの推進						掲載ページ		
							141		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		1,053,328	千円	1,561,000	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	急速な少子高齢化の進展に対応するためには、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりが求められています。本事業は、バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。				活動実績	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク（障害者団体）」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させました。	
活動計画	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク（障害者団体）」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図っていきます。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	【活動の状況】	
	歩道整備延長	7,500 m	5,000 m	5,341 m			106.8 %	順調
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長 （最終目標と最終年度）							
	（最終目標と最終年度）						遅れ	遅れ

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク（障害者団体）」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組みとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 本市は平成9年度の小倉都心地区のモデル地区から、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「まちづくりネットワーク」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の事業主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度も引き続き、「北九州市福祉のまちづくりネットワーク（障害者団体）」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させながらバリアフリー化の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	JR既存駅に対する昇降装置設備支援事業						掲載ページ		
							142		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		1,976	千円	1,500	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	都市交通政策課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	<ul style="list-style-type: none"> 「バリアフリー新法」に基づき、JR駅のバリアフリー化を推進します。 公共交通であるJR駅をバリアフリー化することで、子どもや高齢者等交通弱者の移動の円滑化を図ります。 				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	安部山公園駅のバリアフリー化に向けた検討及び協議							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	バリアフリー化整備対象駅（5千人以上/日）13駅（H13～H22）	13 駅	13 駅	13	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針（国土交通省） （最終目標と最終年度）13駅整備完了、平成22年度							
	バリアフリー化整備対象駅（3千人以上/日）2駅（H23～H32）	-	-	-	-	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針改正（国土交通省）（H23.3.31告示） 対象駅の2駅は、安部山公園駅及び折尾駅 （最終目標と最終年度）								

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	<ul style="list-style-type: none"> 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー新法に基づき、一日あたり利用者が5千人以上の駅を対象に、平成22年を目標に、バリアフリー化を進めてきた結果、整備対象である13駅のバリアフリー化が完了しています。 駅のバリアフリー化を図ることで、子どもや高齢者等にとって、利用しやすい交通施設になり、有効性は高いと考えます。 平成24年度は、安部山公園駅周辺の境界など土地調査を実施するとともに、国や交通事業者等、関係機関との協議を行い、検討は順調に進んでいます。
	「経済性」「効率性」の分析	<ul style="list-style-type: none"> 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 市のほか、国・交通事業者が事業費を負担する制度となっており、可能な限りの財源対策を講じています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<ul style="list-style-type: none"> 平成23年3月31日告示の「バリアフリー新法」基本方針改正を踏まえながら、適切に対応していきます。 安部山公園駅について、平成25年度は、平成24年度の測量業務結果を反映させた検討図面を作成し、国や交通事業者等、関係機関との実施に向けた協議を行います。 折尾駅については、折尾総合整備事業の中でバリアフリー化に取り組んでいきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	バリアフリー環境整備促進事業						掲載ページ
							142
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		0 千円	0 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	建築指導課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	バリアフリー法の認定を受けた建築物で、その建築物内の不特定かつ多数の人が利用する施設(商業施設等は除く。)に至る移動システム等の整備にかかる費用の一部を補助することにより、妊産婦や子ども連れ、高齢者及び障害のある人等が利用しやすい優良な建築物の整備を促進します。		活動実績	市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等により情報提供を行いました。平成24年度の制度利用はありませんでした。		
活動計画	制度の周知や利用促進をし、優良な建築物の整備を行う民間事業者に対し、建設費の一部を補助。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	制度の周知と利用促進					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	バリアフリー法に関する情報提供を、市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等により行います。 (最終目標と最終年度)		-	-	-		
						順調	順調
(最終目標と最終年度)					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	情報提供等は行っていますが、バリアフリー法の認定を受けようとする民間事業者が少なく、制度を利用するまでに至っていません。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	民間事業者等から制度の利用に関して相談を受けてから、次年度の予算の確保、事業の実施となるため、経済性・効率性については現状のままで良いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>国のバリアフリー環境整備促進事業により行う事業なので、事業実績がなくても制度を維持し続ける必要があります。引き続き制度の周知や利用促進のため、バリアフリー法に関する情報提供を市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等により行います。</p>